「時計の歴史」展示パネル制作報告

石山暁子










足を運んでいただけたら嬉しいです

明石市立天文科学館
リニューアル・オープン

2026年7月30日





「時と宇宙」がテーマの科学館 ★ リニューアルの主なポイント



快適な観覧環境

●空調設備・照明設備を更新
●展望室リニューアル
●展望室にはカフェコーナーを新設



プラネタリウム

●恒星原板の修繕
●全天周映像・音響設備を一新



展示を一新

「時のまち明石」を
より深く体感できる展示へ



セイコークラゲ日時計

●屋上日時計広場リニューアル
「セイコークラゲ日時計」が
日時計広場に登場

8月来館者
29,226人
1998年の阪神・淡路大震災
復旧後、最多

リニューアル後、9月4日に入館者
3万人突破

『時の歴史』展示パネル制作チーム



明石市立天文科学館
館長 井上毅さん、学芸員の皆さん
（展示ディレクション・編集）



SciBaco 森 沙耶 さん
（展示プランニング・編集）



いしやま暁子
（デザイン・イラスト）



福島さつき さん
（イラスト）

明石、札幌、東京、神奈川を
オンラインで繋ぎ意見交換

良いデザインのために
良いコミュニケーション！







森さんより
展示体験についての論文や
アイディアを共有いただきました

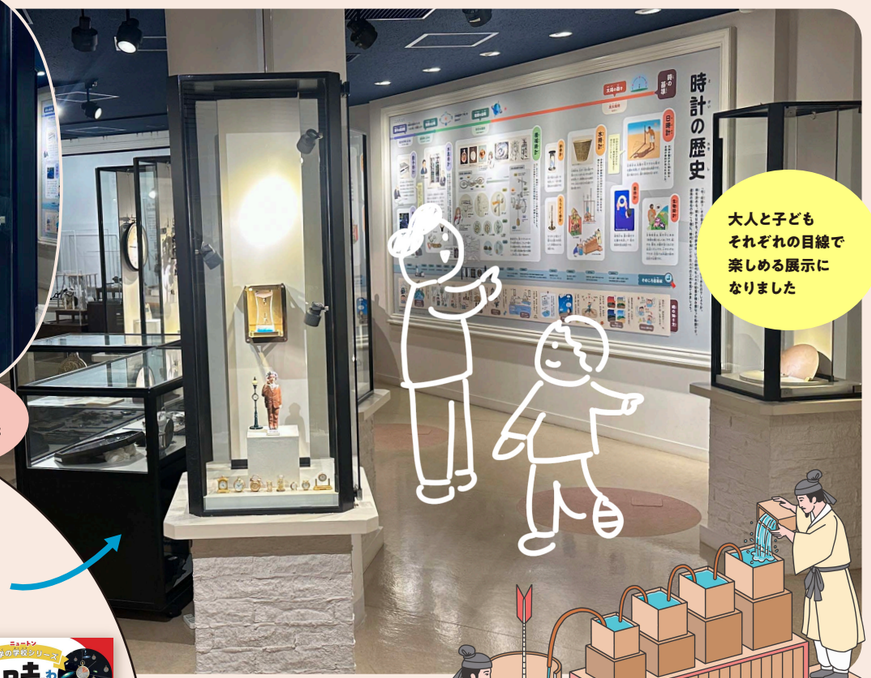
井上さんに集めていただいた
専門家の皆様からの
アドバイスを仮デザインで検討

館内にも
表示された
135°のライン



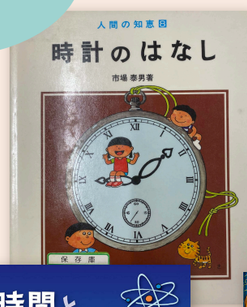


展示動線も
整理されました



大人と子ども
それぞれの目線で
楽しめる展示に
なりました

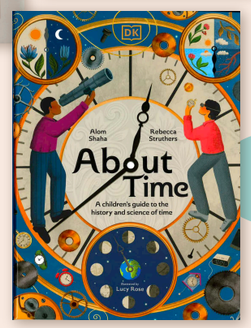
時計の仕組みのイラストは、細かな描写が得意な福島さんに描いていただきました。タッチが違うイラストを使うことで子ども向けの下段との差別化も図ました。











参考図書



パネルには、イラストも多く使用しました。
きっと、人物のイラストにも目が向くのではないかと思います。

人が、人の思いや工夫を受け取り、バトンを渡すように進んできた歴史を、
時計の仕組みとともに、感じていただける展示になっています。

また、パネルの背面には、それぞれの時計の仕組みとセットになった現物展示もあり、
実物を見ながら理解できる面白さがあると思います。

本当に素朴な問いや、簡単な仕掛けから、技術は発展していくんですね！
そして、「そんな精度で時刻を知って、何に使うの？どうなるの？」と考えていくと、
時間を測る精度が高まることで、それまで確認できなかったことが、
少しずつ見えるようになっていくことも、ふんわりイラストで表現しました。